

連載

# 日本の観光洞 -33

水島 明夫 (MIZUSHIMA, Akio  
洞穴科学調査会所属 福岡県在住)

## 山口県 - 1 Yamaguchi-ken

いよいよ本州最西端の山口県です。そして山口と言えば日本最大のカルスト台地にして、日本洞窟学のメッカ・秋吉台。

石灰岩分布は秋吉台を中心に、山口県各地に分布しており、穴も多い。秋吉台だけでも山口ケイビングクラブの集計で450近くある。さらに1,000m以上の大洞窟は“秋芳洞”8,850mを最長に、“鷹ヶ穴”4,636m、“寺山の穴”1,533mなどビッグネームが9本。高低差100m以上の堅穴も12本。新潟の青海には負けるが、最深のものは入見穴見戸の穴で-204m。他にも洞窟研究が進んでいるおかげで、いろいろな特色のある穴が沢山。とにかく日本で洞窟をしているのなら、秋吉台に行っていない人はモグリ(いい響きですね〜)と言えるくらいのエリアです。

観光洞としては、その洞窟の数からすると意外に少なく3洞窟。しかし、それぞれの穴は通路、駐車場を含む周辺施設などしっかり整備されていて、こちらの面でも日本を代表する観光洞エリアです。



### 46. 秋芳洞 Akiyoshi-dou

横穴・全長約8,850m, 高低差145m

#### <特 色>

ヨーロッパからアジア、アメリカと世界のいろいろな穴を見てきたが、洞窟の規模でも、その特色でも、世界に十分通用する日本で唯一の観光洞です。観光洞の紹介の連載をしていうのも何ですが、日本に数ある観光洞の中で、この秋芳洞だけは全く別格でしょう。大学2年の時に初めて入ったあの感動は今でも覚えています。安家や阿武隈、当然奥多摩や平尾台は知っていたが、こんな穴が日本にあったのか…と衝撃を受けたものです。観光洞だけではなく、純粋に穴としても、このスケールを持つ穴は

日本にはそうありません。あえて言えば、阿哲の日咩坂鐘乳穴、ちょっと譲って青海の福来口鍾乳洞くらいか。

そして規模にともなうのが、二次生成物と水。あの百枚皿は世界のどこに出しても威張れます。洞内を流れる水も迫力。観光部分ではないが、洞内登山ができて、さらに迷える須弥山も驚き。そしてそこに接続する“風穴”も“秋芳洞”の一部です。挙げたらきりが無い。まだ入ったことが無いという人がいたら、ケイパー経験として、必ず行って下さい。そんな穴です。

国指定の特別天然記念物にして、国定公園です。

#### <所在地>

山口県美祢市秋芳町秋吉 TEL 0837-62-0304

#### <交通>

新幹線新山口駅からバスで40分、下関からだ約2時間、山口湯田温泉からだ1時間弱、各方面より秋芳洞行きのバスが出ている。さすがに一大観光地、公共交通機関が便利です。車では、中国自動車道美祢ICより、国道435号を北東へ約12kmで約15分。呼び込みの駐車場もあるが、市営駐車場もあり。

#### <管理者>

美祢市総合観光部

TEL 0837-62-0304

秋吉台科学博物館

TEL 0837-62-0640

#### <概要>

かつて“滝穴”と呼ばれていただけあって、洞口のtufaでできた滝が印象的。しかし、植物の光合成によってCO<sub>2</sub>が奪われ、過飽和になったCaCO<sub>3</sub>が沈積したなんて…。成長する滝です。なお、個人的には現在の洞口より、かつての洞口の方が風情があったような気がする。



紅葉の洞口

秋芳洞旧パンフより

洞内に入ると、とにかく巨大な地下空間、そしてそこに点在する数々の名所。青天井は水面に反射した外光が天井を青く映すことから付いた名称。さりげなく“秋芳洞”で最大のつらら石があったりする。巨大なノッチをながめながら、長淵はかつては船で行き来していた。

リムストーンダムの百枚皿、沖良部島は“水蓮洞”のリムストーンとは違った意味で美しい。



秋吉台の自然

秋吉台科学博物館より